

会議録

会議の名称	令和5年度第1回福津市郷づくり推進協議会代表者会議
開催日時	令和5年5月23日(火)14:00~16:00
開催場所	市役所別館1階 大ホール
委員	勝浦：天野 保章 津屋崎：楠田 元明、川内 太 宮司：坂根 康廣、梅野 邦彦 福間：岡田 和憲、梅谷 寧次 神興：富松 享一、山西 祐司 上西郷：高木 文明 神興東：奥 弘子、樋口 英典 福間南：石原 政道、西村 豊子
専任事務局員	勝浦：花田孝信 宮司：三原道雄 神興：中村美保 福間：山口恵美 上西郷：末廣隆 津屋崎：大神常男 神興東：宮崎絵美 福間南：宮本清子
市	原崎市長(欠席) 本多副市長 教育部：城野部長、河野理事 学校教育課：木村係長 防災安全課：椛村課長、楨係長
事務局	市民共働部：香田部長 地域コミュニティ課：石井課長、向井係長、溝田
会議	内容
	配付資料
<p>1. 市長あいさつ</p> <p>2. 郷づくり推進協議会代表者会議について</p> <p>3. 委員の自己紹介</p> <p>4. 会長・副会長の互選</p> <p>5. 依頼・説明事項</p> <p>(1) 令和5年度福津市コミュニティ・スクールの推進に係る説明会の実施について(依頼)(学校教育課)</p> <p>(2) 福津市一斉防災訓練の実施及び期日について(防災安全課)</p> <p>(3) 「福津市共働推進会議」の審議状況について(報告)(地域コミュニティ課)</p> <p>(4) 令和5年度代表者会議の議題について(地域コミュニティ課)</p> <p>6. その他</p> <p><input type="checkbox"/> 福津市郷づくり推進協議会代表者会議設置要綱</p> <p><input type="checkbox"/> 令和5年度 福津市郷づくり推進協議会代表者会議委員名簿</p> <p><input type="checkbox"/> 令和5年度福津市コミュニティ・スクールの推進に係る説明会の実施について(依頼)</p> <p><input type="checkbox"/> 令和5年度福津市小・中学校コミュニティスクール・グランドデザイン説明会のご案内</p> <p><input type="checkbox"/> 福津市一斉防災訓練実施要領(令和5年度)、自主防災組織訓練マニュアル、福津市一斉防災訓練の実施期日について</p> <p><input type="checkbox"/> 「福津市共働推進会議」の審議状況について(報告)</p> <p><input type="checkbox"/> 令和5年度代表者会議の議題について</p> <p><input type="checkbox"/> 令和5年度専任事務局員雇用経費の取扱い状況</p>	

会議内容(要点)

1.市長あいさつ

本多副市長が代理であいさつを述べた。

2.郷づくり推進協議会代表者会議について

(地域コミュニティ課)

郷づくり推進協議会代表者会議の趣旨・目的について、福津市郷づくり推進協議会代表者会議設置要綱を基に説明した。

3.出席者の自己紹介

各委員の自己紹介を行った。

4.会長・副会長の互選

(地域コミュニティ課)

福津市郷づくり推進協議会代表者会議設置要綱の規定により、会長1名と副会長を2名選出していただく必要がある。任期を1年とし2年を限度に再任を妨げないとあり、令和3年度と令和4年度は会長に神興東地域の奥会長、そして副会長に神興地域の富松会長と福間地域の佐伯旧会長という体制であった。3年目となる令和5年度は改めて互選により選出していただくことになっているが委員のみなさまいかがであろうか。特になければ、事務局に一任いただけるであろうか。

(委員一同)

事務局に一任する。

(地域コミュニティ課)

それでは、会長には神興地域の富松会長、副会長には勝浦地域の天野会長、上西郷地域の高木会長にお願いしたい。

・一同の賛同により承認された。

5.依頼・説明事項

(1)令和5年度コミュニティ・スクールの推進に係る説明会の実施について(依頼)(学校教育課)

学校教育課が令和5年度コミュニティ・スクールの推進に係る説明会の実施について説明した。

(委員)

希望日時回答書とあるが、提出期限が示されていない。また希望日はいつ頃をイメージされてるのか教えてほしい。

(教育部)

ご希望日は可能な限り早い時期と考えているが、6月以降、7月、8月でも構わない。私達では開催されるタイミングがわからなかったこと、また会議の内容等もあって思っていたため、少し遅くなっても構わないと考えており、回答書は6月いっぱいを目途に提出していただけるとありがたい。

(委員)

内容が10分で足りるのかということ、短くすれば人が集まるということではなく、逆に忙しい中集まるので、それなりの内容がないと意味がない。言葉の定義の説明から、実際にどんなことをしているのかということまで含めて、丁寧に説明をいただきたい。10分というのは、全て網羅して10分で大丈夫なのか、それとも遠慮しているからなのか。十分時間をかけて納得いただきたいのなら、「最低この時間く

ださい」という時間の指定をしてほしい。できればいろいろ改善していただきたいので、時間をもう一度確認していただきたい。

(教育部)

各郷づくりの委員の方が集まる会があれば、そちらにお邪魔して、それ以外に協議する内容もあると思うので、会の終わりのほうで 10 分程度お話できればという発想で考えていた。逆に時間をいただけるのなら、その時間に合わせた形で資料等も充実させ説明させていただきたいので、ご希望時間があれば回答書の空白に何分と書いていただきたい。

(委員)

「短い時間で結構です」という切り口自体が「コミュニティ・スクール」を地域に浸透させたいという気持ちがあるのか。委員と言っても、本部員もあれば部会員の委員もあり、郷づくりでは運営委員会や自治会長も参加する 30 名程度の会議もある。新年度の 1 年目の自治会長さんなどは、福津市にコミュニティ・スクールっていう制度があることをご存知ないかと思う。今のような地域説明をされるのであれば、説明だけでなく質問等も「子供たちの育ちを地域で支えてほしい」ことが伝わるように丁寧にしないと聞く意味がない。できたら早い時期にこの説明をしたいのか、それとも時間が取れるときに、「この議題でしっかり地域の方に説明したい」と思いがあるのか、そのあたりははっきりお示しいただきたい。

(教育部)

できれば郷づくり単位の協議の中で、多くの方が集まる機会に説明させていただければありがたい。時間は、10 分で考えていたが、より詳しく説明の希望をいただいた場合はその時間に合わせ、カスタマイズして資料も追加したい。質疑等もしたいという方がいらっしやると思うので、少し超過時間をいただくかもしれないが、ご協力いただきたい。

(2) 福津市一斉防災訓練の実施及び期日について(防災安全課)

防災安全課が福津市一斉防災訓練の実施について説明した。

(委員)

「情報伝達を確実に行う」とは、何を情報伝達するのか。家庭、地域、小学校、行政が行うことがそれぞれ書いてあるがバラバラに見える。実際このマニュアルも自主防災会が本部を立ち上げるその状況はどうか、また災害の状況も当然市は把握するべきだろう。そういった情報も情報伝達に入るのかどうか、ただどこまでどうやるのか見えてこない。

(防災安全課)

今回の訓練で情報については、防災行政無線と緊急速報メールから情報入手するところまでを考えている。

(委員)

実際に災害が発生したことを想定して、もう少し何か実践的なことをしないと本当に災害が起こった時に動けないと思う。せっかくコロナも落ち着いたのもう少し突っ込んだ内容の訓練を検討してほしい。

(防災安全課)

時間もまだあるので、検討してまたお知らせしたいと思う。

(委員)

私は第 1 回目から参加しているが、内容が一向に変わっていない。繰り返すことも大切だが、例えば当日訓練のタオルをかけた状況の把握訓練は私の地域では防犯上の問題でほとんど協力を得られない。私は自治会の中で訓練するときに実施していたこととして、まず避難訓練に参加するメンバー

を、「あなたの組からは何人、どういう方が参加しますか」と事前に伺っておき、そして避難場所を決めて避難する。そして申告していた人が、避難してきたかどうか確認する。防災で異常なし報告を受けるのは、一番大切なことです。だから、行政の方でもっと具体的に「こういうことに今年は取り組みましょう」ということを示してほしい。

(委員)

ご説明いただいた資料でかなり矛盾がある。1 ページ目の災害の想定です。ライフラインや道路標識も寸断されており、連絡を取る手段をどうするのかというのはどこにも書いてない。情報収集してくださいと書いてあるが、スマホは使えないので、その上でどうするかという話の一つ。

二つ目、郷づくりに何をしてほしいか、一緒に何をするか、また郷づくりの拠点が防災拠点になり得るかかどうかという点も一緒に検討してほしい。

(防災安全課)

災害想定 of 通信網が寸断された過程の中では、口頭で人から人への伝達として、初動のシェイクアウト訓練を実施してほしい。また各自治会に一斉訓練の情報を伝達していただきたい。また郷づくり単位でもできれば訓練を実施してほしい。郷づくりの中の、小・中学生や要配慮者・高齢者といった方々の訓練も含めたところで、どういう訓練が郷づくりでできるか一度ご検討いただきたい。郷づくりが防災拠点になりえるかは、現時点では郷づくりの事務所を避難所等には指定していないが、郷づくりという単位は、自主防災組織として頼りにしている。

(会長)

去年の防災一斉訓練の反省を踏まえて今回の防災訓練はあまりブラッシュアップされていない。私のところでもいろいろ実施しているがマンネリ化により、レクリエーションのような感じで皆さん避難している。災害が発生したときの自治会・郷づくり・学校・市役所の連携や連絡体制等が全然伝わってないような気がするが、本当に起こった時に、これでいいのか。

(防災安全課)

毎年参加率が減っている中で実施期日の変更を中心に議論をしていきたい。「実際災害が起こったときの更なる具体的な想定が必要」という意見は頂戴して今後の研究材料にしていきたい。

(委員)

今の行政が実施する防災訓練は「防災訓練ごっこ」になっている。実施するなら、何か具体的な実績が行政にも報告されるような仕組みを作り、訓練していかないといけない。以前地域のアイデアを実施して良かった事例がある。まずは組別に札を持ってくる。その札の元に、組の人が全員集合する。そして参加した人を全員チェックする。すると自分の組が「全員避難訓練終了しました」と組長に報告し、その組長が自治会長へ、次に郷づくりの会長へ、最後に行政へと報告されていく。シェイクアウトに関して、紙ベースの回覧で「シェイクアウトはこんなことをするんですよ」というふうに知らせたほうが、もっと効果的だと思う。欲張ってやらずに、「今年はこれをやろう」というふうに何か一つ決めてやった方が効果はあると思う。

(委員)

災害時の地域リーダーとして設置された防災推進員が必要とされてないように感じる。地域で協力したいという思いを持って推進員になっていただいているのに、何か役割はないのか。

(委員)

郷づくりに自主防災組織ができていますので、訓練のやり方は郷づくりに任せたらどうか。市から「郷づくりが今年はこのことをやろう」という意見が出ているが、やはり行政の文書は特徴がない。ならば自分たちで経営計画・発案・実行して、その実行内容を市に報告するというやり方もあるのではないかと。

(防災安全課)

防災推進員はあくまでも年々変わる自治会長や役員のサポート役として「去年はこういう訓練をしていた」などといった助言等を主な役割としている。また訓練を各郷づくりに任せるという点は、必須訓練は皆一斉に行い、任意訓練で各郷づくり、地域で企画してやっていただきたい。

(委員)

「必須訓練が生ぬるい・具体性がない」と言われているので、その回答はおかしい。

(防災安全課)

必須訓練も含めて、一旦皆さんの意見は頂戴したい。

(委員)

任意訓練と必須訓練の両方は実施できない。身の安全を守るために、それぞれの地域の考え方があると思う。必須訓練や任意訓練といった分け方自体おかしいと思う。

(防災安全課)

今後の参考にぜひともさせていただきたい。

(委員)

自治会に加入していない人が増えている。訓練にも参加されていない。プライバシーの問題があると思うが住民情報を災害に限って公開できるシステムを設けないと、避難した後に誰が生存されて誰が不明なのか把握できない。住民情報をこういう場合には出せるといったことを検討いただけないか。

(防災安全課)

全住民情報が必要ということか。

(委員)

そのとおり。避難訓練はすべての住民が対象になっているのに、情報はないので、実際に起こった場合、自治会未加入者を見殺しにするんじゃないか。

(防災安全課)

災害時の住民情報等については国もいろいろ検討中のため、その判断を待っての対応になる。

(委員)

古賀市では非常時には情報を出せる独自の条例を作られたと思うし、国を待っていたらいつ起こるか分からない。

(防災安全課)

古賀市の条例は勉強しておきたい。

(委員)

前年度の自主防災会の元自治会長さんからこの必須訓練・任意訓練の表現について指摘された。「何が必須で何が任意だ、こんな表現はやめてほしい」と複数名から言われ、表現を含めて検討してほしい。それが「この郷ではこの訓練をします」ぐらい、シンプルでもいいのかなと思う。

(防災安全課)

防災安全課として、必須訓練・任意訓練の呼び方については、命を守るとは自助から始まる一つ一つの小さいことの繰り返しになると思っている。その小さいことを積み重ねて、初めて現実となる場所もあるかと思う。そういう形で訓練を、今後もお願いしたい。

(委員)

災害発生時に、一糸乱れず動けるような仕組み作りが大事だと思う。そのために、防災推進員をブラッシュアップするような仕組みが必要である。その方たちと、市内の防災士のプロや有識者の方々をなぜ組織化しないか。必要に応じて、お金を払ってでも協力・組織化をした上で指揮命令をはっきりさせ、どうするか、または行政から「こういう人を育てたい、防災士を育成するために、あなたの地区に受験料をだすので、頑張ってもらいたい」というのはどうか。マニュアル3ページのような表現はありえず、自主防災本部はどこで誰がどう作るか、具体性がなく一般論でしかない。自主防災本部においても、どこにあるかわからないものを出せない。それから避難住民の安否確認を行うような、必要ないところまでやれといわれると、バラバラになる。助けられる人はどんな人か、想定した上でどんな形がいいかを、先ほどの防災士の件も含めて、有識者を集めて討議して作っていただきたい。

防災安全課が、福津市一斉防災訓練の実施期日、タオル掛け訓練について説明した。

(会長)

防災訓練が過渡期に来ていると思う。行政は今までの訓練でいいのかどうか、今いろんな意見が出されたことを検討して、今後進めていただきたい。

(3)「福津市共働推進会議」の審議状況について(報告)(地域コミュニティ課)

地域コミュニティ課が福津市共働推進会議の審議状況について報告した。

(委員)

人財の「財」という字が財産の「財」を使っているのはなぜか。

(地域コミュニティ課)

最近是人材が貴重であるという意味合いを込めてこの「財」を使う場合が増えている。正式な条例や規則上は「材」を使っている。正式にまとめ上げる際には専門家の大学の先生との話の中でこれを使い続けるか検討していきたい。

(4)令和5年度代表者会議の議題について(地域コミュニティ課)

(地域コミュニティ課)

令和5年度の代表者会議の議題について提案した。

(委員)

代表者会議は、必ずこの場所でしないといけないのか。各郷づくり拠点に行って、その特徴を聞く、そういうのがあってもいいのではないだろうか。

(地域コミュニティ課)

物理的に制約があるところもあるが、コロナも若干緩和しているので、その地域に行ってその場で様々な紹介を受けながら話をする、といったことも検討したい。正式会議とは別に実践交流会の場を設けたこともあったが、まずは代表者会議の中でさせていただきたい。

(委員)

「郷づくり」そのもののネーミングをみんながイメージできるよう、市民にネーミング募集だとか、そういったことを考えてイメージチェンジからするというのも必要ではないか。

(地域コミュニティ課)

ネーミングについては、今後代表者会議の中で、議題に挙げながら進めることが考えられる。郷づくり事業の一つの区切りとして何か新しい印になるように名前を変える事も一つ案として今後協議してい

きたい。

(会長)

以上で説明事項は終わりにさせていただく。

(副市長)

防災訓練の件で、防災安全課としては初動体制がしっかりできているかが基本だという考えがある。それぞれの地域で特色があり避難経路等も様々な方法があると思う。その辺も念頭に置きながら意見を聞いて、有意義な訓練ができればと考えている。あとは個人情報の件は、なるべく提示できるようできないか調査させていただく。また防災推進員は人数を絞って知識のある人をまず確実に作るという方向が先だということを、私が以前市役所にいるとき聞いていた。あとは防災士会等もあるが、そこは地域には限定されないの、市として協力体制をとっていくという形も当然必要かと思う。そこに受講費等がかかるので、今後の課題であると思うが、いただいた意見は防災安全課にも伝えて、再度調整し何らかの形でまたお知らせできたらと思う。

(委員)

以前、私の地区である方が突然お見えになり、「私は引っ越してきましたが、自治会について何の連絡もありません。どうしたらいいですか」とお話をされました。組長と自治会に確認すると、何も資料もなく、情報がないので分からないとのことでした。市にお願いしたいこととして「あなたの区に新しく越してこられましたよ」その一報がほしい。以前、なぜくれないのかと市役所に聞くと、個人情報だからと言われた。個人情報と、地域に情報もらうって話は別であると思う。同じように、今度は若木台の中で自治会未加入者の方が出ていかれたが、何も情報がない。こういう大事なことが、行政の地域の間ですごいギャップがあるので、基本的なことのすり合わせをもう一度見直してほしい。

(地域コミュニティ課)

個人情報の件は、他の部署に相談する必要があるの、検討させていただく。

6. その他

(地域コミュニティ課)

- ・令和5年度の専任事務局員の雇用経費の取り扱い状況について説明した。
- ・令和4年度郷づくり推進事業交付金の返還手続、及び令和5年度同交付金の振込時期について説明した。

(地域コミュニティ課)

以上で郷づくり推進協議会代表者会議を終了する。